

教育とは「人という環境」を整備する事

【国民が十分な教育を受ける事が出来る環境】

【人間形成に必要な事を経験して知っていく環境】

【家庭では経験できないことを味わう環境】

【おばあちゃんの知恵袋は無駄な事？】

最初に『国民が十分な教育を受ける環境』は国が定めていることであり、全国民が平等に受ける権利があります。それを妨げることは国民の義務を果たさないことになってしまいます。また、それらを意図的に妨害することもしてはいけません。

ここで言う「意図的」なところは、様々な要因があるかと思いますが、その要因を取り除き全国民が権利を受けられるようにしなければならないと思います。これには、個人、学校、地域、社会と様々な連携が必要になります。

また、要因の中には、人的（子育て対応）なことや経済的理由があります。まずは皆様のお住まいの自治体等に必ず相談窓口があるので一度相談してみるのもよいかもしれません。

次に「人間形成に必要な事を経験して知っていく環境」としての教育の環境です。ここで言う幼稚園教育の環境とは、「遊びを通して」の人間形成の学習になります。幼稚園の「遊びと」は一言に言うと、文部科学省の幼稚園教育要領の中にもあるように、生活することが全て学習になります。その為、幼稚園では幼稚園教諭の国家資格を持った教師が「遊び」を設計して仲立ちや助言していきます。

幼児期の「遊び」は教師が発達段階に合わせてコーディネートして計画、設計した遊びになります。しかし、教師がするのは全てナッジです。「一緒に」やったり、「一緒に」悩んだり、「一緒に」考えたりしていきます。それでも解決しない時は最終手段としてヒントを出しますが答えは教えないようにします。

最短の答えを与えることは、子どもの将来に良い影響が出ないからです。これは、経済産業省が言っている『社会人基礎力』が身につかないからです。

この力は幼児期や子どもの頃に、多くの失敗や多少の喧嘩などを経験しないと付かない力です。知育でピンポイントに覚えるよりも、感覚的に身に付ける学習をした方が将来の力になるからです。

学習の仕方は、関わる大人の行動を見てその時の雰囲気や言葉を見たり聞いたりしながら自然と身に付けていった方が良いと思います。

「この時はこう！」など事例的に覚えず、問題にぶつかり自ら考え工夫して

乗り越える事を練習して、振り返りながら学んでいく事が【人間形成に必要な事を経験して知っていく環境】だと思います。

最後に「家庭では経験できないことをする環境」ですが、学校は人が集まる所で、大勢の人と触れあいを持ったり、会うことを毎日します。

教育の環境として「家庭では経験できないことをする」は、社会生活の練習の提供でもあります。ダイナミックに絵の具を使ったり、絵を描いたりすることが学校で出来る「家庭では経験できないことをする」ではなく、子ども同士で会話や交流をしながら、知恵を出し合って生活の工夫ができるようになる為の練習の場所でもあります。なぜなら生涯人は人と接していかなければならないのです。

そのためにも、子ども達にはスポット的な知育よりも、人とぶつかり合いながら、知り得た知恵を出し合い活用して乗り越えていく練習に力を入れた方が良いと思っています。

その為にも幼稚園では、10の姿を基に「非認知能力の獲得」が出来るように、毎日を組み立てて経験できるようにしています。

活動内容は子どもの予測できる範囲で生活を組み立てて、考えることが出来る余裕のある活動で毎日を組み立てていかなければならないと考えています。

しかし、大人から見ると毎日繰り返しながら好きなことで遊んでいるように見える子ども達ですが、この繰り返しも立派な学習になっていると思います。

同じように見えながらも少しずつ変化を加え、自分で出来たかのように感じさせていくようにしています。少し進んで、また少し戻ると法則性が見えず無駄に見える事が多いかもしれません。

例えば、ただ園庭を一人で走る。誰かと一緒に走るなど、どこでも出来る事と思いますが、毎回違うお友達がいたり、沢山いる中で気の合った仲間と遊ぶこともあります。それが大事な経験になるのです。子どもの学習は作業ではありません、気の向くままに動きトラブルを作り、そして解決する事の繰り返しが大事な学習なのです。興味関心の気持ちを大切に思う存分やりきり達成感を味わう方へ、向かう気持ちを伸ばしてあげたいと思います。

制作でも、使いたいものを気にせず思う存分使える事も挙げられます。のりを自由に使って、机や床を汚しても自分で処理すれば幼稚園では問題にはなりません、紙を切り散らかしても自分で処理すれば幼稚園では問題はありません。

自分の行動に責任を持つ練習をするようにしているからです。

それよりも興味関心の気持ちを持ち続ける方に重点があるからです。

もし同じ作業を、自宅のカーペットの上でやる時はなかなかこうはいきません。子どもは大抵、大人から最初にこう言われてしまいます「机の上でやって」

「新聞紙からはみ出さないようにやって」など最初から制限が入ってしまうでしょう。

最初から制限付きで行っても、その遊びにのめり込むほど集中できるでしょうか？大人の目を気にしながらの作業で、のめり込んで達成感を味わえるでしょうか？やりきったときの子どもの周りには「のめり込んだ量」がわかるぐらいの結果があるでしょう。そして子どもはまたやりたいと言うでしょう。

またやりたいという気持ちがあるため、散らかしてしまっただ後の片付けも、達成感を持っているので苦にならないと思います。

思う存分にやる経験を重ねていくうちに、汚さないこと、散らかさないようにした方が良いと気付きます。自分で考えてやる気が出なければ、散らかさないよう活動するのは中々難しい事だと思います。その様な気持ちや行動は大切な事だと持っています。興味関心の気持ちや行動を制限しなで出来るのが【家庭では経験できないことを味わう環境】と思っています。子ども達には、幼稚園で達成感を味わいながら生活できるような環境を目指しています。

また、保護者の方とも共通理解を持ち子ども達にとって良い方向へ一緒に向かっていけたら良いと思っています。

教育は環境（人）によって成せる事であり、学習の為の問題集は生活をしていく中で必要になる事であり、その勉強のための教科書も人間です。問題集にも教科書にもなる人は、清く正しく美しく、しっかりと導く事が必要になります。

「教育とは伝えて確認する事である」という観点から、教師は子ども達に伝えた知恵を活用している場面を確認して工夫しているところがあるかを見極め、しっかり身につけ定着しているかを確認するまでが教育の基本中の基本になります。一方的な関わりで覚えて活用出来なくては意味がありません。活用する場所など適切に活用しているかを確認するのも人であり「環境」としての人の役割です。

教える側はどれだけの「知恵袋」を大きくしてあげたかが問われます。質や量、サイズも大切でその場で必要な知恵をいかに使ったり、出せるかにも配慮してあげる事も大切です。

「知恵袋」のキャパシティーは無駄な事とされている事が大切になってきます。生活が多様化されてきている今日、対応するには経験の豊かさで変わってきます。生活の対応力は「おばあちゃんの知恵袋」が必要になってきます。是非、私たち大人が学校で習う難しい数式や英語の単語よりも、今の生活の中で必要な事は何か振り返り、将来を担う子ども達のために何が必要なのか考えて接していってあげましょう。